

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング教材による非同期型授業 講義90分×15回+レポート+自学自習	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	人間と生命		6. DPコード／分野コ ード／科目ナンバリング	bcxG	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 知の探訪				
	(英文名) Guidance of Human Intelligence				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)				
	(英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西計英				
	(ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	初年次対象	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	徳島大学、研究、科学技術 / Tokushima University, Research, Technology				
21. 授業概要	大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。とくに、大学では「研究する」ということが、大学では、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」って何なのかを考えていきたいと思います。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる				<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる</p> <p>大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる</p>	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>① 金西計英・総合教育センター「ガイダンス」</p> <p>／野地 澄晴・徳島大学学長 「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」</p> <p>② 高石 喜久・徳島大学副学長 「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」</p> <p>③ 金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開：ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」</p> <p>梶龍児・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」</p> <p>④ 玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」</p> <p>井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」</p> <p>⑤ 二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい!? ～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」</p> <p>⑥ 吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」</p> <p>⑦ 吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」</p> <p>⑧ 大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」</p> <p>⑨ 豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか？」</p> <p>⑩ 親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」</p> <p>⑪ 荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」</p> <p>⑫ 辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」</p> <p>⑬ 安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」</p> <p>⑭ 原口雅宣・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」</p> <p>⑮ 依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」</p> <p>⑯ 定期期末試験(レポート)</p>	☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義後に関連する事項について復習する	☑
28. 成績評価の方法と基準	<p>期末に定期試験(レポート)を実施し、成績評価をおこないます。ただし、本授業はe-ラーニング形態ですので、各回、課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として用います(各回の課題が6回以上未提出の場合は成績反転の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します。</p>	☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	☐

	連携大学学生向け					
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名			<input checked="" type="checkbox"/>		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください（e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています）。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。			<input checked="" type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名		<input type="checkbox"/>		
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名		<input type="checkbox"/>		
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
	参考書2	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
	参考書3	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
34. Webテキスト(URL・説明)				<input type="checkbox"/>		
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他( )	<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>		
38. オフィスアワー	自大学学生向け	物理的に徳島大学への訪問は困難だと推測されますので、問い合わせはメールにて		<input type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)		<input type="checkbox"/>		
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学学生向け	徳島大学大学開放実践センター 2階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@		<input type="checkbox"/>		

	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考			<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	グローバル化教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング教材による非同期型授業	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	グローバル化教育科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) モラエスの徳島 (英文名) Moraes's Tokushima				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) グローバリズムと異邦人 (英文名) Globalism and People from Abroad				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 宮崎隆義 (ローマ字) Miyazaki Takayoshi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人 / Moraes, Tokushima, Globalism, Cross-cultural Understanding, Alien				
21. 授業概要	ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め、ゆかりの場所を紹介しながら、理解を 深め、同時に異文化理解というものを考える。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	グローバルという言葉が声高に叫ばれているが、その根底には越境ということがある。政治、経 済、科学技術、医療、環境、文化、芸術など、ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで、 複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは、ひとつの価値観に囚わ れることなく複数の視点で眺めてみることであろう。人や物、芸術、文化の往来と影響関係には 長い歴史があるが、それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として、徳 島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは、何回か日本にやってきた後に、1899年から 日本で暮らし、その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人				☑

	で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが、軍人、文人、外交官として、その当時の日本を、徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して、グローバリズムと異邦人ということを考えながら、異文化の理解ということを考えてみたい。		
23. 授業の到達目標／学修課題	徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ、異文化理解というものがどういうものか、現代のグローバリズムの中で考えてみることを目標とする。	<input checked="" type="checkbox"/>	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. ガイダンス 2. 異邦人ということ 3. モラエスの生涯 4. モラエスの時代と同時代人—ラフカディオ・ハーン(小泉八雲) 5. モラエスの時代と同時代人—ジョーゼフ・コンラッド 6. モラエス顕彰の概観—戦前と戦後 7. モラエスの著作 8. 徳島のモラエス 9. モラエスの徳島 10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1 11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2 12. 『おヨネとコハル』1 13. 『おヨネとコハル』2 14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1 15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2 16. 定期試験(レポート)	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報		<input type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	毎回の簡単な感想と定期試験(レポート)の評価を総合判断して成績の評価をする。本授業はe-learning形態なので、毎回簡単な感想を提出してもらい、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として扱う。さらに、毎週定期的に教材にアクセスしないで、定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合、成績評価に反映する。	<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	あり	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	あり	<input checked="" type="checkbox"/>
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり	<input checked="" type="checkbox"/>	

	香川大学30名・徳島大学30名・鳴門教育大学30名・高知大学30名・愛媛大学30名					
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。				<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	徳島の盆踊り			
		ISBN		著者名	モラエス著, 岡村多希子 訳	
		出版社	ことのは文庫	出版年	2010年	
		金額		備考	※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません	
	教科書2	書名	日本精神			
		ISBN	4-88202-379-2	著者名	モラエス著, 岡村多希子 訳	
		出版社	彩流社	出版年	1996年	
		金額		備考		
	33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	おヨネとコハル		
			ISBN	4-88202-915-4	著者名	モラエス著, 岡村多希子 訳
出版社			彩流社	出版年	2004年	
金額				備考		
参考書2		書名	モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯			
		ISBN	4-88202-558-2	著者名	岡村多希子	
		出版社	彩流社	出版年	2000年	
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)					<input type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該科目		教職・その他( )	<input type="checkbox"/>	

37. 教員相互参観授業公開日程			<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール (miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp) で問い合わせてください。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)	<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考			<input type="checkbox"/>



## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目群	4. 授業形態／授業種 別	講義映像(数十分程度)や資料による学 習で15回分
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	歴史と文化	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 (英文名) German Prisoners of War in Japan 1914-1920		
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 四国の収容所を中心に (英文名) Focusing on Camps in Shikoku		
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 井戸 慶治 (ローマ字) Ido, Keiji		
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区 分	
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科
16. 曜日・時限		17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け
	連携大学 学生向け		連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	捕虜、第一次世界大戦、青島(チンタオ)、ドイツ prisoners of war, World War I, Quingdao, Germany		
21. 授業概要	第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所—特に四国の収容所—における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテクストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をさせていただいたり、関連の場所を訪れたりする。		<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。		<input checked="" type="checkbox"/>

23. 授業の到達目標／学修課題	<p>1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。</p> <p>2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテキストの中で位置づける。</p> <p>3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。</p>	☑	
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）			
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>1. 導入。板東を訪れる。</p> <p>2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。</p> <p>3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。</p> <p>4. 九州の収容所（久留米、福岡、熊本、大分）</p> <p>5. 中国・近畿の収容所（姫路、青野原、似島、大阪）</p> <p>6. 関東・東海の収容所（名古屋、静岡、東京、習志野）</p> <p>7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン？</p> <p>8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。</p> <p>9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』</p> <p>10. 板東収容所（1）。収容所新聞『ディ・バラック』。活発な音楽活動。</p> <p>11. 板東収容所（2）。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。</p> <p>12. 日本に関わった元捕虜。ポーネルとマイスナー。</p> <p>13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。</p> <p>14. 捕虜待遇の歴史（世界と日本）</p> <p>15. 捕虜待遇の歴史（捕虜と「武士道」）</p> <p>16. 定期試験（レポート）</p>	☑	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>各授業のビデオを見て、1) 内容の自分なりのまとめ、2) 感想ないし考察、3) 質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特にない場合は書かなくてもよい。</p> <p>以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらう。執筆時の留意点については、メッセージの欄を参照のこと。</p>	☑	
28. 成績評価の方法と基準	<p>上記の小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。</p>	☑	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし。	☑
	連携大学学生向け	なし。	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり		☑

	香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名																																																																								
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。</p> <p>レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1) 参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2) 得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるように努めること。情緒的でなく論理的な文章をめざすこと。3) 特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んでしまうと、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>																																																																				
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-8102-0450-2</td> <td>著者名</td> <td>瀬戸武彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>同学社</td> <td>出版年</td> <td>2006年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名	『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』			ISBN	4-8102-0450-2	著者名	瀬戸武彦	出版社	同学社	出版年	2006年	金額		備考		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
教科書1	書名	『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』																																																																							
	ISBN	4-8102-0450-2	著者名	瀬戸武彦																																																																					
	出版社	同学社	出版年	2006年																																																																					
	金額		備考																																																																						
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">『どこにしようと、そこがドイツだ』</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>田村一郎(編著)</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>鳴門市ドイツ館</td> <td>出版年</td> <td>2006年(第3版)</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">『ディ・バラック』(1-4巻)</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>鳴門市ドイツ館</td> <td>出版年</td> <td>1998年—2007年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3">CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>ドイツ館史料研究会訳・編集</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>鳴門市ドイツ館</td> <td>出版年</td> <td>2012年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書4</td> <td>書名</td> <td colspan="3">板東俘虜収容所</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>富田弘</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>法政大学出版局</td> <td>出版年</td> <td>1991年、(新装版)2006年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名	『どこにしようと、そこがドイツだ』			ISBN		著者名	田村一郎(編著)	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2006年(第3版)	金額		備考		参考書2	書名	『ディ・バラック』(1-4巻)			ISBN		著者名	鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	1998年—2007年	金額		備考		参考書3	書名	CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」			ISBN		著者名	ドイツ館史料研究会訳・編集	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2012年	金額		備考		参考書4	書名	板東俘虜収容所			ISBN		著者名	富田弘	出版社	法政大学出版局	出版年	1991年、(新装版)2006年	金額		備考		<input checked="" type="checkbox"/>
参考書1	書名	『どこにしようと、そこがドイツだ』																																																																							
	ISBN		著者名	田村一郎(編著)																																																																					
	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2006年(第3版)																																																																					
	金額		備考																																																																						
参考書2	書名	『ディ・バラック』(1-4巻)																																																																							
	ISBN		著者名	鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集																																																																					
	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	1998年—2007年																																																																					
	金額		備考																																																																						
参考書3	書名	CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」																																																																							
	ISBN		著者名	ドイツ館史料研究会訳・編集																																																																					
	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2012年																																																																					
	金額		備考																																																																						
参考書4	書名	板東俘虜収容所																																																																							
	ISBN		著者名	富田弘																																																																					
	出版社	法政大学出版局	出版年	1991年、(新装版)2006年																																																																					
	金額		備考																																																																						
34. Webテキスト(URL・説明)	「チンタオ・ドイツ兵俘虜研究会」ホームページ： <a href="http://homepage3.nifty.com/akagaki/">http://homepage3.nifty.com/akagaki/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>																																																																				
35. パソコン必要度	自宅／大学を問わず、LMSを利用でき、教材コンテンツを視聴できる環境	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等	教職・その他( )		<input type="checkbox"/>																																																																				

	境を準備できること	／資格取得該当科目	
37. 教員相互参観授業公開日程			<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	質問などについては、下記連絡先を参照のこと。	<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)	<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学総合科学部1号館北棟1階 e-mail: <a href="mailto:ido.keiji@tokushima-u.ac.jp">ido.keiji@tokushima-u.ac.jp</a> メールでの連絡は、moodle内部からも教員名をクリックしてできる。また、面談を希望する場合は、事前にメールにてアポイントメントを取ること。	<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	徳島大学総合科学部1号館北棟1階 e-mail: <a href="mailto:ido.keiji@tokushima-u.ac.jp">ido.keiji@tokushima-u.ac.jp</a> メールでの連絡は、moodle内部からも教員名をクリックしてできる。また、面談を希望する場合は、事前にメールにてアポイントメントを取ること。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考			<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング教材による非同期型授業 講義90分×15回+レポート+自学自習	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	生活と社会		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	bcdG	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 現代科学と研究倫理				
	(英文名) Modern science and research integrity				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)				
	(英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西計英				
	(ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次		
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用 /research ethics, research misconduct, FFP (fabrication, falsification, plagiarism)				
21. 授業概要	本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じる事が難しくなってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究				☑

	<p>はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える必要がある。この授業は、学部の学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。</p>	
23. 授業の到達目標／学修課題		<input type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>①金西 計英・総合教育センター「研究倫理の進め方」（ガイダンス）</p> <p>②石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」</p> <p>③齊藤 隆仁・教養教育院「研究と不正行為」</p> <p>④佐藤 高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」</p> <p>⑤楊河 宏章・大学病院「臨床（医療系）研究と倫理」</p> <p>⑥山本 真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」</p> <p>⑦内藤 直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」</p> <p>⑧山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」</p> <p>⑨山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」</p> <p>⑩松本 高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」</p> <p>⑪勢井 宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」</p> <p>⑫金西 計英・総合教育センター「出版の倫理と論文」</p> <p>⑬織田 聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」</p> <p>⑭織田 聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」</p> <p>⑮石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」</p> <p>⑯定期試験（レポート）</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報		<input type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<p>期末に最終課題としてレポートを課します。また、各授業回において小テスト等の課題が課せられます（小課題）。単にビデオを視聴するだけではなく、各回の小課題を必ずこなしてください。小課題には締め切りが設定されています。締め切りを守ってください。小課題が6回以上未提出の場合は、成績判定の対象として扱いません。成績は、最終課題と各回の課題とを総合的に評価します。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	<input type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり	<input checked="" type="checkbox"/>

	香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名					
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの				<input type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得」		<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(編)』
		出版社	丸善出版	出版年		2015
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)				<input type="checkbox"/>		
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他( )	<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>		
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール (marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@) で問い合わせること。			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学大学開放実践センター 2階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp			<input type="checkbox"/>	

	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考			<input type="checkbox"/>



シラバス情報収集フォーマット（2016年6月改訂）

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。（記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入）
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェックを入れて下さい。（各大学のシラバスに必ず記載されます）

1. 開講年度	平成31年度		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	汎用的技術教育科目群		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	スタディスキル		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 大学の知の活用				
	(英文名) Practical use of university's intellectual property				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 無し				
	(英文名) 無し				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 井内健介				
	(ローマ字) Kensuke Inai				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2 単位		13. 選必区分／単位区分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	初年次対象	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	四国地域の大学、産学官連携、イノベーション、研究、知的財産 university in Shikoku, industry-academia-government collaboration, innovation, research, intellectual property				
21. 授業概要	本講義では、大学の知の活用に必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを紹介する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	大学の知の活用に必要な基礎知識及び四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを知ることにより、その必要性や大学と地域との関わりを理解することを目的とする。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題	1. 大学の知の活用に必要な基礎知識を理解する。 2. 四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを理解する。 3. 大学の知の活用の必要性を実感する。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 井内健介准教授・徳島大学「大学の知の活用の全体像」</li> <li>2. 土居修身教授・愛媛大学「大学の知の活用に必要な基礎知識①」</li> <li>3. 土居修身教授・愛媛大学「大学の知の活用に必要な基礎知識②」</li> <li>4. 下方晃博講師・高知大学「大学の知の活用に必要な基礎知識③」</li> <li>5. 土居修身教授・愛媛大学（中川氏・株式会社プルータス・コンサルティング）「大学の知の活用に必要な基礎知識④」</li> <li>6. 前田眞教授・愛媛大学「大学の地域貢献」</li> <li>7. 兼平重和特任教授・徳島大学「四国地域における大学の知の活用に関する取組①」</li> <li>8. 兼平重和特任教授・徳島大学「四国地域における大学の知の活用に関する取組②」</li> <li>9. 永富太一准教授・香川大学「文系領域の産学連携プロジェクト」</li> <li>10. 永富太一准教授・香川大学「コンソーシアムからの産学連携プロジェクト」</li> <li>11. 石塚悟史准教授・高知大学「高知大学における産学連携事例1」</li> <li>12. 石塚悟史准教授・高知大学「高知大学における産学連携事例2」</li> <li>13. 藤井章夫客員教授・徳島大学「(徳島の事例) 怒りのブレークスルーより光のブレークスルーへ」</li> <li>14. 織田聡教授・徳島大学「バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携①」</li> <li>15. 織田聡教授・徳島大学「バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携②」</li> </ol>	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義後に関連する事項について復習する。		<input type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	本授業はe-ラーニング形態です。各回で出題する小課題(100%)で成績評価をおこないます。ただし、各回の小課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績を判定しません。		<input type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し	<input type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	無し	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名		<input type="checkbox"/>

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください(e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています)。高度な自律性が求められることを理解した上で、本科目を履修するようにしてください。			<input type="checkbox"/>																																																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">教科書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>	教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>																																		
教科書1	書名																																																				
	ISBN			著者名																																																	
	出版社			出版年																																																	
	金額		備考																																																		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">参考書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>	参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
参考書1	書名																																																				
	ISBN			著者名																																																	
	出版社			出版年																																																	
	金額		備考																																																		
参考書2	書名																																																				
	ISBN		著者名																																																		
	出版社		出版年																																																		
	金額		備考																																																		
参考書3	書名																																																				
	ISBN		著者名																																																		
	出版社		出版年																																																		
	金額		備考																																																		
34. Webテキスト(URL・説明)				<input type="checkbox"/>																																																	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	無し	<input type="checkbox"/>																																																	
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>																																																	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	物理的に徳島大学への訪問は困難だと推測されますので、問い合わせはメールにて		<input type="checkbox"/>																																																	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)		<input type="checkbox"/>																																																	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 研究支援・産学官連携センター 井内准教授 inai.kensuke(a)tokushima-u.ac.jp ※(a) → @		<input checked="" type="checkbox"/>																																																	

	連携大学 学生向け	香川大学 社会連携・知的財産センター 永富准教授 nagatomi(a)eng.kagawa-u.ac.jp ※(a) → @ 高知大学 地域連携推進センター・知的財産部門 下方講師 a.shimokata(a)kochi-u.ac.jp ※(a) → @ 愛媛大学 社会連携推進機構 秋丸准教授 akimaru.kunihiro.mu(a)ehime-u.ac.jp ※(a) → @ 鳴門教育大学 知的財産室 宮本准教授 Kmiyamot(a)naruto-u.ac.jp ※(a) → @	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	民間企業、技術移転機関、政府系機関等において、知的財産の活用に関する実務経験を有する講師が、大学の知を活用するために実務上、必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを、実例を交えて講義する。		<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	基礎基盤教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	基盤教育学		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 大学教育を考える (英文名) Thinking on University Education				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 無し (英文名)無し				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 吉田博 (ローマ字) Hiroshi YOSHIDA				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	1～2年生		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1・2年次/全学部	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント(FD) Higher education policy, Undergraduate Program, Graduate Attributes ,Active learning, Faculty development				
21. 授業概要	大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりがや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 日本の大学教育の現状(背景・課題)を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴む				<input checked="" type="checkbox"/>

	ことができる	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>1. ガイダンス, 大学生へのメッセージ (吉田・久保田)</p> <p>2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田)</p> <p>3. 単位制度とはなにか: 大学のカリキュラムを考える (久保田)</p> <p>4. 初年次教育はなぜ必要か: その役割を考える (吉田)</p> <p>5. 教養教育はなぜ必要か: その役割を考える (久保田)</p> <p>6. 学生の学びを促進する授業とはなにか: アクティブ・ラーニングを考える (吉田)</p> <p>7. 大学生は学んでいるか: 大学生の学習時間を考える (吉田)</p> <p>8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか: 図書館の学習支援を考える (吉田)</p> <p>9. 大学における学生支援とはなにか: 正課外の学びを考える (吉田)</p> <p>10. 成績評価とはなにか: 公正な評価に向けた課題を考える (久保田)</p> <p>11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか: 大学の教育改善を考える (久保田)</p> <p>12. 大学教員に必要な学びとはなにか: FDを考える (吉田)</p> <p>13. 大学を取り巻く動向を考える: ①国内外の高等教育政策の動向 (久保田)</p> <p>14. 大学を取り巻く動向を考える: ②障がい学生に対する支援 (久保田)</p> <p>15. 大学を取り巻く動向を考える: ③大学教育におけるジェンダー (久保田)</p> <p>16. 定期試験(レポート)</p> <p>※担当講師: 吉田 博 (徳島大学総合教育センター) 久保田祐歌 (関西福祉科学大学社会福祉学部)</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learning	<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のクイズ(15点)、毎回の小レポート提出(15点)、他者のレポートへのコメント(15点)、コメントに対する返信(15点)、期末レポート(40点)の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。</p> <p>※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信(60点配点)については、次のように確認します。吉田担当の授業(1,4,6,7,8,9,12回)の小テスト、小レポート、コメント等(28点配点)は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業(2,3,5,10,11,13,14,15回)は、小テスト、小レポート、コメント等(32点配点)は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。</p> <p>※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。</p> <p>※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。</p>				
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		<input type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	無し			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。</p> <p>URL: <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html</a></p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	無し				
	教科書1	書名			
		ISBN		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
				<input type="checkbox"/>	
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			
		ISBN		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
	参考書2	書名			
		ISBN		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
	参考書3	書名			
		ISBN		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
				<input type="checkbox"/>	
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>無し</p> <p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ</p> <p><a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a></p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	無し 教職・その他( )	<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>	

38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)で問い合わせてください。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)	<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida @tokushima-u.ac.jp)	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida @tokushima-u.ac.jp)	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考	無し		<input type="checkbox"/>



## シラバス情報収集フォーマット(2017年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後 期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	自然と技術		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 行動統計学入門				
	(英文名) Introduction to Behavioral Statistics				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) エクセルを利用した統計的分析手法の基礎				
	(英文名) Fundamentals of statistical analysis using Excel				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 川野 卓二				
	(ローマ字) KAWANO Takuji				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生			15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学年	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	データの整理、記述統計、推測統計、統計的仮説検定、確率的判断/Data summary, Descriptive statistics, Inferential statistics, Statistical hypothesis test, Probabilistic decision				
21. 授業概要	社会科学や行動科学を学ぶ際、目的をもって集められたデータを整理し、その中に存在する情報を記述統計、推測統計の手法を用いて分析、理解することが必要となる。この授業では、文系の学生にも重要な統計学の基本的な手法を具体的な演習課題をエクセルで解きながら学習する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	調査や実験を通じて収集したデータを整理し、その分析手法および結果解釈法の基本を学ぶ。また、手軽に利用できる道具としてエクセルを利用しデータ分析に必要な手順を体得する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	エクセルの基本的な機能を利用して、与えられたデータの整理、および分析ができる データの整理、分析を行う際、そのデータの種類に合わせた方法を選択し、正確に行うことができる 正確に記述統計量と検定統計量を計算し、その解釈を行うことができる データの種類と統計分析の目的に合わせて仮説検定を行い、その結果を確率的に判断することができる				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>01. オリエンテーション、統計学の用途とエクセルの利用</p> <p>02. データの記述：整理法、表示法、図示法 課題(01・02)提出締切日：11月第2週</p> <p>03. データの理解、代表値、散布度</p> <p>04. データの分布と変換 課題(03・04)提出締切日：11月第3週</p> <p>05. データの集計：単純集計、クロス集計</p> <p>06. データの関連、相関 課題(05・06)提出締切日：11月第4週</p> <p>07. 記述統計から推測統計へ 確率分布の利用(1)</p> <p>08. 推定と検定 確率分布の利用(2) 課題(07・08)提出締切日：12月第1週</p> <p>09. 統計的検定の手順</p> <p>10. t 検定の利用 課題(09・10)提出締切日：12月第2週</p> <p>11. U検定、T検定の利用</p> <p>12. カイ2乗検定の利用 課題(11・12)提出締切日：12月第3週</p> <p>13. 相関係数の利用</p> <p>14. ファイ係数の利用 課題(13・14)提出締切日：12月第4週</p> <p>15. 統計手法適用の問題点と留意点</p>	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	授業の内容を補完する練習問題(提出必要なし)、および課題(提出必要、最終成績の一部となる)を解き、学んだことを定着させてください。		<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	各回(01～14)の課題の提出状況(42%)と期末試験レポート(58%)で行ないます。各回の課題は、それぞれ次の評価(75%以上の正解=3点、50～75%の正解=2点、25～50%の正解=1点、25%未満=0点)を受けることになる。提出回数が少ない場合は、課題の合計得点が少なくなるので注意してください。10回分以上の課題が提出された後で、期末試験レポートの提出資格が生じます。期末試験レポートは、第15回の授業を受講後に取り組み、不正行為がないことの宣誓書(別様式あり)への記名等とともに提出があった場合のみ採点されます。(期末試験レポートの提出締切日：1月15日)		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限：○あり・なし</p> <p>香川大学 20名・徳島大学 20名・鳴門教育大学 20名・高知大学 20名・愛媛大学 20名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	この授業は、エクセルについて学ぶための授業ではなく、エクセルを使って学ぶ授業です。そのため、エクセル未経験者の履修はご遠慮ください。履修希望学生は、グラフ作成や数値計算などのエクセルの基本的な操作をすでに習得していることが求められます。授業内容に関係した統計や数学等に関わるエクセル関数については、授業の進展に合わせて紹介していきます。			☑																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">I S B N</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名																																																						
	I S B N		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3">本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">I S B N</td> <td>978-4-7628-2125-7</td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td>吉田 寿夫</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td>北大路書房</td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td>2006年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td>2500円＋税</td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書2</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">I S B N</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書3</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">I S B N</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>			参考書1	書名	本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本			I S B N	978-4-7628-2125-7	著者名	吉田 寿夫	出版社	北大路書房	出版年	2006年	金額	2500円＋税	備考		参考書2	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☑
参考書1	書名	本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本																																																					
	I S B N	978-4-7628-2125-7	著者名		吉田 寿夫																																																		
	出版社	北大路書房	出版年		2006年																																																		
	金額	2500円＋税	備考																																																				
参考書2	書名																																																						
	I S B N		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書3	書名																																																						
	I S B N		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>			☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他( )	☐																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程				☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	メールで初回対応をします。オフィスアワーの時間予約を行ってください。その際、件名には「e統計学入門」と記してください。		☑																																																			
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) メールで対応します。その際、件名には「e統計学入門」と記してください。		☑																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	kawano (アットマーク) tokushima-u.ac.jp (アットマーク)を@に置き換えてご利用ください		☑																																																			
	連携大学 学生向け	kawano (アットマーク) tokushima-u.ac.jp (アットマーク)を@に置き換えてご利用ください		☑																																																			
40. その他／備考				☐																																																			

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	前期後半	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	地域科学教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	地域科学教育科目		6. DPコード／分野コ ード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 徳島で暮らす・徳島で働くを考える (英文名) Challenge of "life in Tokushima, work in Tokushima"				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)川崎 克寛 (ローマ字)Katsuhiro Kawasaki				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1～3年生	
16. 曜日・時限			17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	徳島県 将来ビジョン やりがい 暮らし Tokushima / Vision for the future / Work and life				
21. 授業概要	徳島県内の第一線で活躍するリーダーや県内高等教育機関のOB・OG を講師に迎えて、経験の中から生まれた確信や考え方を語ってもらうと 共に、ディスカッションを行って、主体的に考える。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	徳島県の産業面から見た将来ビジョンと地元で働くやりがいや暮らしの 楽しさ、メリットなどについて、地域の識者から学び、考え、話し合うこ とで、将来、就職先としての徳島県の魅力について理解を深める。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	①徳島の地域文化を理解し、徳島における暮らしの魅力を説明すること ができる ②徳島の成長力がある産業を理解し、大学での自分の学びとつなげて考 えることができる				☑

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)																					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回: 徳島県の将来ビジョン(知事講演)</p> <p>第2回: 徳島の地域づくりと観光産業</p> <p>第3回: 徳島の地域医療と福祉の仕事</p> <p>第4回: 徳島の次世代技術関連産業の展望</p> <p>第5回: 徳島の6次産業化の取り組みと農林水産業の展望</p> <p>第6回: 徳島のICTと地域産業</p> <p>第7回: 徳島県の山海エリアで働く(パネルディスカッション)</p> <p>第8回: 徳島県の強みと成長産業+総括</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	参考図書として「徳島を好きになる本-文化と経済でみる「徳島」」(徳島経済研究所)を推薦します。市販品ではありませんが、大学図書館などで参照できます。			<input checked="" type="checkbox"/>																	
28. 成績評価の方法と基準	各回講義の終わりに作成する小レポート(10点×7回)と最終レポート(30点)			<input checked="" type="checkbox"/>																	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし		<input checked="" type="checkbox"/>																	
	連携大学学生向け	なし																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限: あり・なし</p> <p>香川大学20名・徳島大学50名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	各ビデオ講義を視聴し徳島県の魅力について理解を深めた上で、徳島県の魅力について友達や知人等と話し合ってみてください。			<input checked="" type="checkbox"/>																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
教科書1	書名																				
	ISBN		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	教職・その他( )		<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け				<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	e-mail: coc-plus(at)ml.tokushima-u.ac.jp ※(at) → @			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	e-mail: coc-plus(at)ml.tokushima-u.ac.jp ※(at) → @			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考					<input type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	自然と技術		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	MATH1321JLAS	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 数理科学の世界 (英文名) Invitation to Mathematics				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 大淵 朗 (ローマ字) Akira Obuchi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全年次／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	正多面体, 対称性, 小説, 美術, 歴史, パズル, 初等数学 regular polyhedron, symmetry, fiction, fine arts, history, puzzle, elementary mathematics				
21. 授業概要	講義は一回ごとにテーマを決めて、原則一回完結になります。内容としては、数学の歴史、古代から近代文明に見ることの出来る数学の様相(西洋だけでなく江戸時代や中国の数学を含む)、美術で使われる数学理論、数学を取り扱った文学、音楽理論に現れる数学の理論、数学者の人間像(古代から現代まで)、占星術で使われる数学などで、レベル的には高校数学の内容で充分理解できるものです。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	高校までの数学では、「与えられた問題に公式を当てはめて答えを出す」ことの繰り返しだったかも知れませんが、「数学する」ことの本質は、そんな限定的な物ではなくて、世の中の色々な場所に見ることができます。この講義では、様々な場面に於いて数学が現れてくる瞬間を観察する事で、受講者の数学に対するイメージをもっと広い物にってもらうことを目的とします。こう言った広い意味での「数学する」ことの本質を知ることは人間社会の文化、科学、技術を支える人間の知的活動を体感することにもつながるものと考えます。				☑



23. 授業の到達目標 ／学修課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的概念や「数学する」ことを実感する.</li> <li>・数学が嫌いでなくなる.</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代バビロニアの数学と古代エジプトの数学</li> <li>2. 最初の女性数学者とアラビアの数学</li> <li>3. 音楽と数学</li> <li>4. 絵画の中の数学</li> <li>5. ケプラーの宇宙観</li> <li>6. ルイス・キャロル</li> <li>7. ピュタゴラス</li> <li>8. 悪魔とサイモン・フラッグ</li> <li>9. 中国の数学と日本の塵劫記</li> <li>10. 和算と算額</li> <li>11. 数学史のなかの女性</li> <li>12. 対数の発見と計算の道具</li> <li>13. ゲームの数学</li> <li>14. スナーク狩り</li> <li>15. イミテーションゲーム</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>教科書は使いません。毎回資料を提示します。講義は原則一回完結を目指しています。</p> <p>毎回の授業では、ビデオや資料の視聴と小テスト(30問程度の問題群から10問程度をランダムに出題)があります。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	適宜、参考資料を提示します。	<input type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法 と基準	<p>本科目に関しまして以下の基準で評価をさせていただきます。</p> <p>1:毎回の資料及び動画は必ずMoodleにアクセスの上ご確認ください。全資料を確認して、「感想」を記入頂けますと一回の出席になります。一回の出席は1点に評価します。なお、「感想」の提出回数が10回未満の場合は、期末試験の受験資格を与えません。</p> <p>2:毎回30問の〇×で答える小問が用意されています。15回の講義ですので合計で450題になります。期末試験にて各受講者へ、その450題の中から各回の問題よりランダムに6題選択され合計90題をweb上で出題しますのでweb上で解答してもらいます。</p> <p>3:講義16回目が期末試験になります。通常の講義の時間に解答してもらいますので解答時間は90分になります。尚ランダムに問題を選択しますので、期末試験で選択される問題は受講者ごとに異なります。</p> <p>正解の場合は1問1.5点で評価させていただきます(不正解は0点)</p> <p>4:上記1:と3:の合計点を100点換算した得点(但し小数点以下は四捨五入)が最終得点になります。つまり</p>	<input checked="" type="checkbox"/>



	<p>((出席の点数+期末試験の点数)/150)×100の小数点以下四捨五入が最終得点です。この得点で評価します。 5:毎回用意される30題は自主学習として講義終了後に何回も解答が可能です。ただし、この自主学習の解答結果は評価には加えません。</p>					
29. 再試験の有無	自大学学生向け			<input type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け					
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:なし 香川大学_名・徳島大学_名・鳴門教育大学_名・高知大学_名・愛媛大学_名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第1回目から第15回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。受講方法の詳細については、LMS内のガイダンスを参照してください。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a></p>			<input type="checkbox"/>		
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし 教職・その他( )	<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>		
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メールを利用してください。		<input type="checkbox"/>		

	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) 電子メールを利用してください。	<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	ohbuchi@tokushima-u.ac.jp	<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	ohbuchi@tokushima-u.ac.jp	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考			<input type="checkbox"/>

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されま  
す)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期前半	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	一般教養教育科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	人間と生命		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名)文化心理学入門 (英文名) An Introduction to Cultural Psychology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)無し (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 川野 卓二 (ローマ字) KAWANO Takuji				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学生		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	無し	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	心理学、教育、学習、発達、認知／psychology, education, learning, development, cognition				
21. 授業概要	心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	心理学の歴史を知ることで、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ることで、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。				☑

24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）					
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>※授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「科学的な方法」ってなに？-心の社会・文化・歴史性-</li> <li>2. 「個人」と「社会」はどちらが先か？-ピアジェとヴィゴツキーの考え方-</li> <li>3. 「道具」は何を変える？-「媒介された行為」の概念-</li> <li>4. 実験室は「真空」か？-心理学実験の生態学的妥当性-</li> <li>5. 世界がヒトに「語りかけてくる」？-生態学的心理学とアフォーダンス-</li> <li>6. 学習は「獲得」か？-状況的学習論-</li> <li>7. 学校はなにを教えるのか？-学校教育への社会・文化的アプローチ-</li> <li>8. 大人は子どもになにができる？-ポストモダンの発達支援-</li> </ol>			<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計点が60点以上である。</li> <li>・小レポートを5回以上提出している。</li> </ul>			<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	無し			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限：あり</p> <p>香川大学40名・徳島大学40名・鳴門教育大学40名・高知大学40名・愛媛大学40名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書（購入の必要のある図書）	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>
ISBN			著者名		
出版社			出版年		
金額			備考		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	文化心理学－発達・認知・活動への文化－歴史的アプローチ			<input type="checkbox"/>
		ISBN	978-4788508170	著者名	マイケル・コール	
		出版社	新曜社	出版年	2002	
		金額	5940	備考		
	参考書2	書名	社会と文化の心理学－ヴィゴツキーに学ぶ－			
		ISBN	978-4790715375	著者名	茂呂雄二・田島充士・城間祥子(編)	
		出版社	世界思想社	出版年	2011	
		金額	2400	備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	moodle(LMS)上の「質問コーナー」を利用すること。			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) moodle(LMS)上の「質問コーナー」を利用すること。			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	kawano (アットマーク) tokushima-u.ac.jp (アットマーク)を@に置き換えてご利用ください。			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	kawano (アットマーク) tokushima-u.ac.jp (アットマーク)を@に置き換えてご利用ください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他／備考					<input type="checkbox"/>	

## シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

## 【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度	2019		2. 開講学期	後期前半	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	地域科学教育科目群		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	地域科学教育科目		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 外国人と四国遍路の歴史				
	(英文名) The History of Foreigners and the Shikoku Pilgrimage				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名)				
	(英文名)				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) モートン 常慈				
	(ローマ字) Moreton George				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必修区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	1～2年全学部		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	1～2年全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	四国遍路、外国人、地域文化、 Shikoku pilgrimage, foreigners, regional culture				
21. 授業概要	四国遍路の1200年の歴史における外国人の歴史を細かく取り上げて、彼らが持っている四国遍路についての感想や思いを考察して、世界への四国遍路PR活動、そして、これからの課題(例えば、世界遺産運動)を紹介する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	この授業の目的は四国遍路の研究活動の中で、ほとんど調べたことがない外国人遍路の実態や歴史と今後の課題を知ってもらうことです。				<input type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国人遍路の歴史を深く知ること。</li> <li>2. 100年経っても四国遍路に関する感想が変わってないことを認識すること。</li> <li>3. 今後の問題点か課題を理解して、解決方法を考えさせること。</li> </ol>				<input type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)					
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(授業内容の概要説明を含む)、外国人遍路についての研究</li> <li>2. 19世紀後期～20世紀初期</li> <li>3. 20世紀初期～1960年代</li> <li>4. 1960年代～2007年</li> <li>5. 2007年～現在</li> <li>6. 様々な問題(Part 1)</li> <li>7. その他の課題や問題(Part2)</li> <li>8. 巡礼道と世界遺産</li> <li>9. 期末レポート</li> </ol>			<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>各授業(1～8)のビデオを見て、1000-1200字(A4サイズ)の小レポートを提出する。          期末試験は2400字以上(A4サイズ)のエッセイまたは調査報告を提出する。(授業で扱った1つのテーマについて) *フォントサイズを12、行間を1.5にしてください。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	<p>8回分の小レポートを計60点満点、期末エッセイを40点満点で評価し、60点以上を合格とする。ただし小レポートの受験数が4回未満の場合、期末エッセイの提出資格を与えない。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		<input type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	無し			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり          香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名</p>			<input type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					<input type="checkbox"/>
	教科書1	書名			
		ISBN	著者名		
		出版社	出版年		
		金額	備考		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	巡礼の歴史と現在—四国遍路と世界の巡礼			<input type="checkbox"/>
		ISBN	978-4-87294-828-8	著者名	愛媛大「四国遍路と世界の巡礼」研究会	
		出版社	岩田書店	出版年	2013	
		金額	7900円	備考	モートン 常慈・P109-126 「西洋人の目で見えた四国遍路—大正時代から昭和初期まで—」	
	参考書2	書名	同行二人の遍路—四国八十八ヶ所霊場			
		ISBN	978-4-8046-1334-5	著者名	佐藤久光(訳)	
		出版社	大法輪閣	出版年	2012	
		金額	2000円	備考		
	参考書3	書名	回遊型巡礼の道・四国遍路を世界遺産に			
		ISBN	978-4-9070832-44-1	著者名	五十嵐敬喜、岩崎邦男等	
		出版社	ブックエンド	出版年	2017年11月	
		金額	1800円+税	備考	モートン 常慈・ p106-118 「四国遍路の魅力を世界に伝えた西洋人・オリバー・スタットラーの功績を中心に」	
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ <a href="http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/">http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/</a>				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等/本科目受講が必要となる資格等/資格取得該当科目	教職・その他( )		<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(moreton@tokushima-u.ac.jp)を利用してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) 電子メール (moreton@tokushima-u.ac.jp) を利用してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	自大学 学生向け	電子メール(moreton@tokushima-u.ac.jp)を利用してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	電子メール(moreton@tokushima-u.ac.jp)を利用してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. その他/備考	なし				<input type="checkbox"/>	